

新・もっともっと地産地消推進戦略のポイント

計画年度 2019年～2023年

基本目標 地産地消運動の推進による地域農業の振興

I 生産・供給体制の強化と時代に適した販路の拡大

- 地場産食材の生産拡大
- 直売や契約的販売の拡大
- 農商工連携による地場産品の利用拡大、6次産業化の推進
- 生産供給体制の構築
- 安全・安心な農産物の供給
- 耕作放棄地の発生防止・利活用の推進

(主な取り組み)

- ・ 主穀作経営体や集落営農組織等への園芸作物の導入を推進
- ・ 市場流通を基本に直売や契約栽培等の多様な販売体制づくりの支援
- ・ 生産者と実需者との定期的な商談会・情報交換会の開催
- ・ 地場産農産物を活用した加工品等の開発を推進
- ・ 適正な農業生産活動の実践（GAP）の推進
- ・ 耕作放棄地や遊休農地を活用した薬用作物等の作付けやその利用支援

II 地域資源の高度活用と購買気運の醸成

- 市民運動としての気運高揚
- 市民・企業等の活動参加の促進
- 学校給食などでの地場産食材の利用拡大

(主な取り組み)

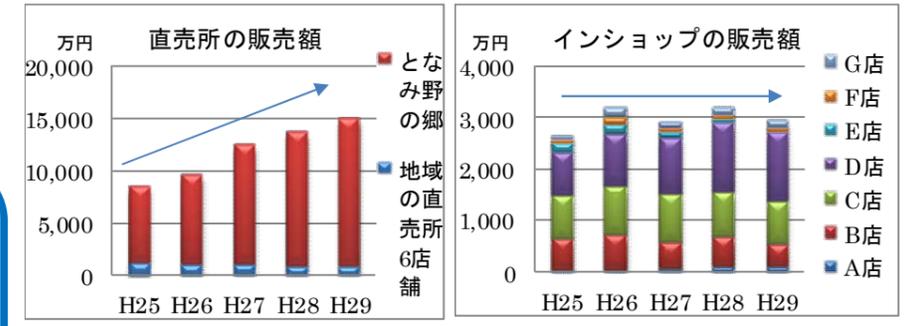
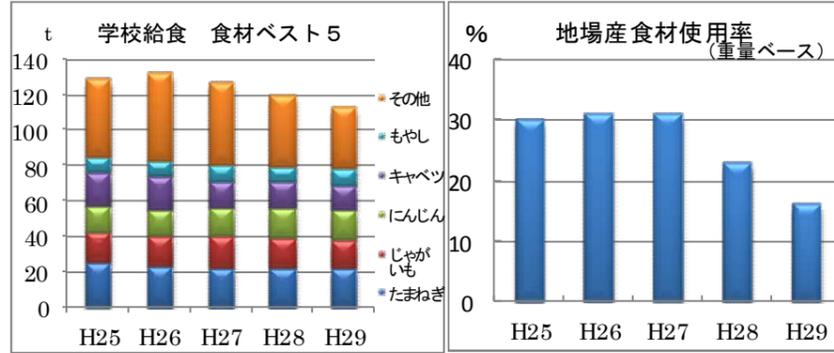
- ・ 地場産（砺波産）の表示
- ・ 学校給食への地場産食材の使用拡大
- ・ ホテルや旅館、企業等における地場産食材の活用
- ・ 学校給食における生産者と児童・生徒との交流活動の推進
- ・ 各小中学校に地場産農産物啓発資料を配布

III 生産者と実需者・消費者との交流促進

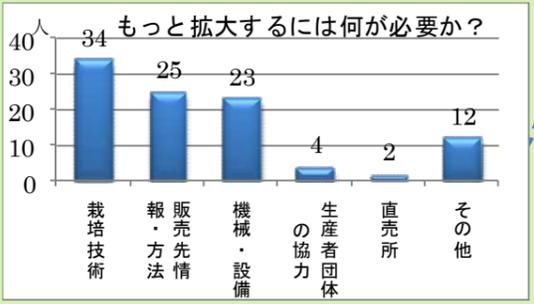
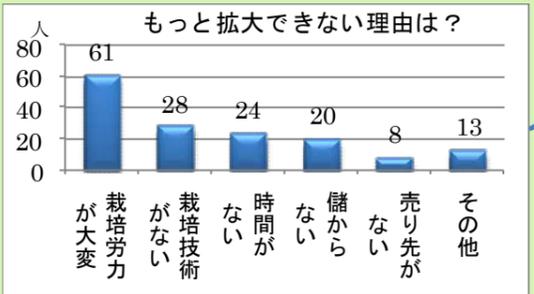
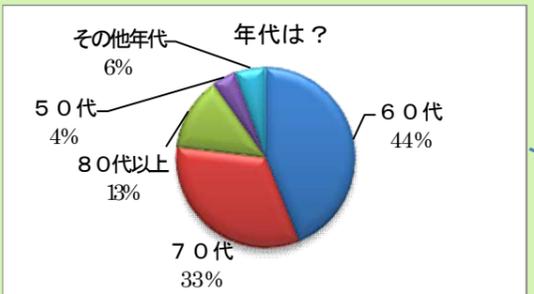
- 交流活動の支援
- 食文化の継承・発展
- 地産地消の情報発信

(主な取り組み)

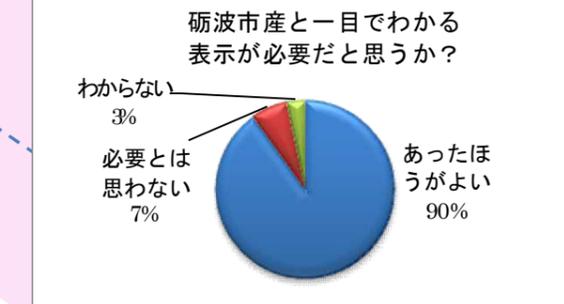
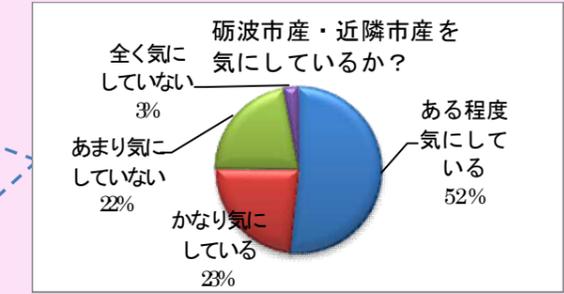
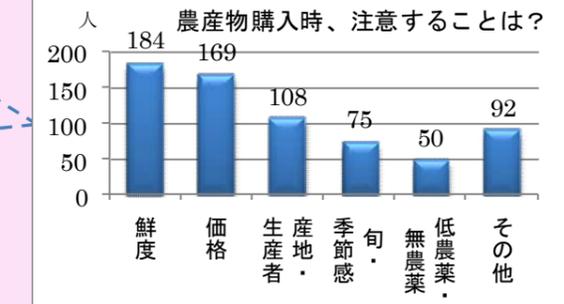
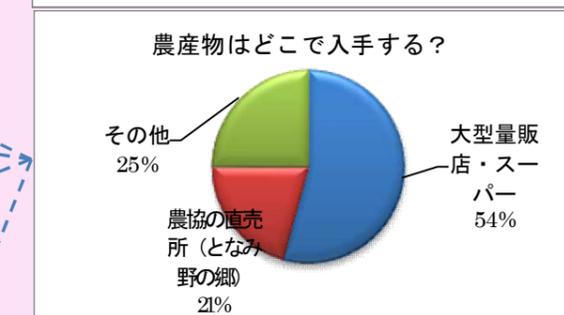
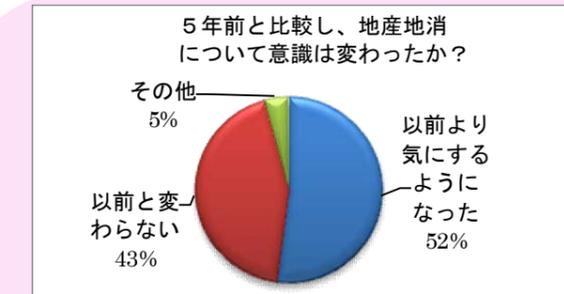
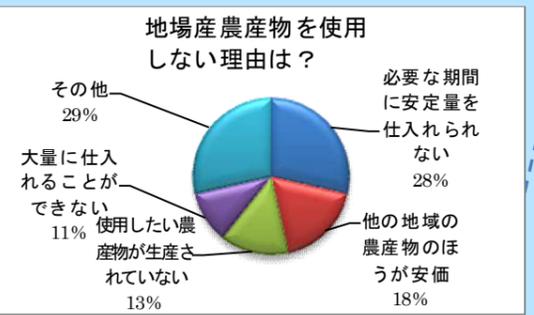
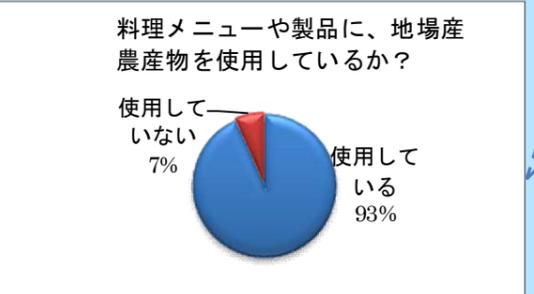
- ・ 都市住民と農村との交流推進（コシヒカリオーナーなど）
- ・ 実需者や消費者に対する郷土料理や地場産農産物の調理方法の提案
- ・ 農産物品評会や地場産食材を活用した料理コンクールの開催
- ・ ホームページや広報誌等を通じて旬の食材や食イベントの情報発信



アンケート調査結果
生産者

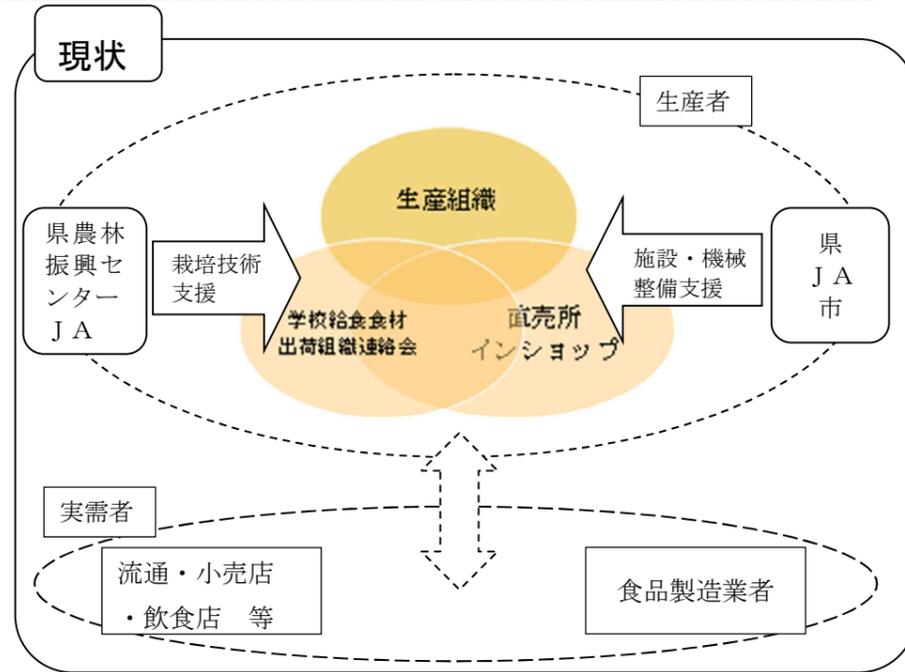


アンケート調査結果
実需者



アンケート調査結果
消費者

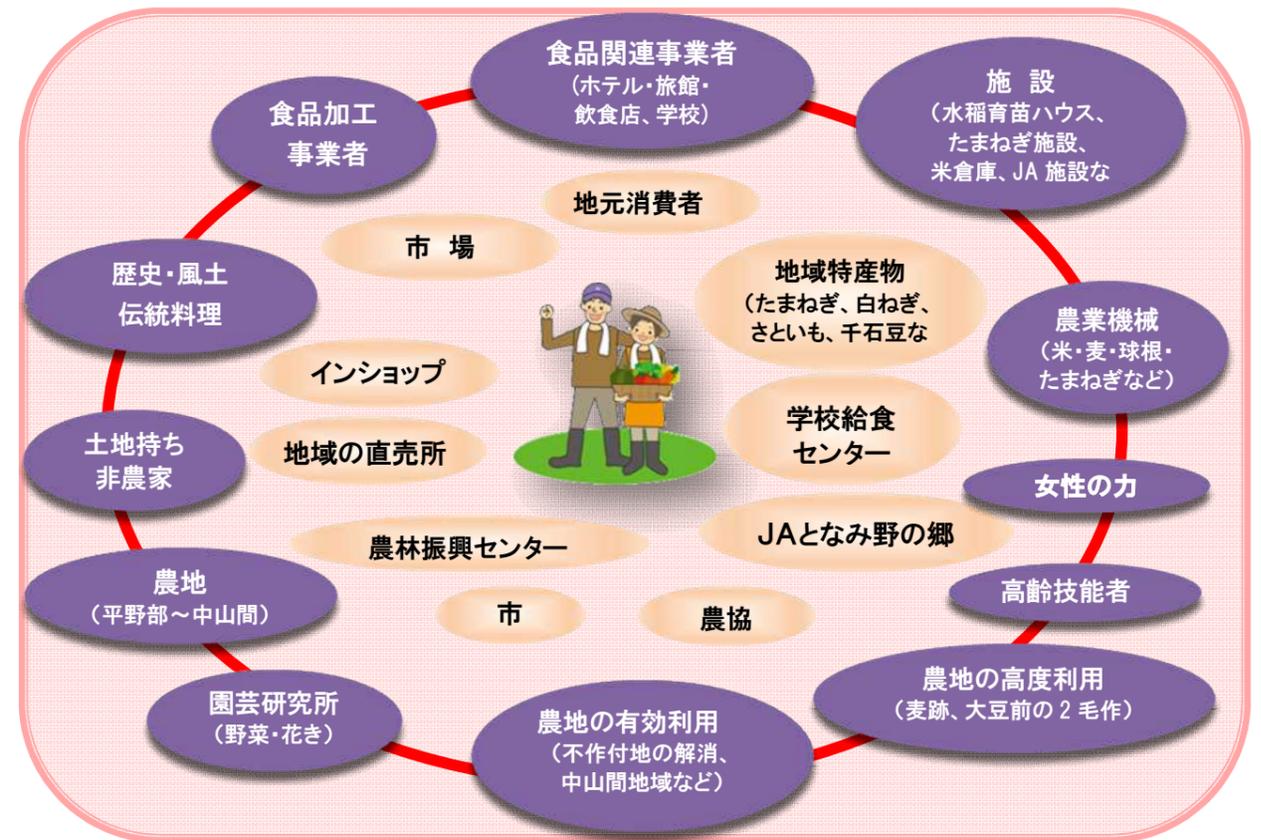
生産供給体制の構築



主な指標

指標	現状値 (2017年)	目標値 (2023年)
たまねぎ経営面積	77.6ha	140ha
JAとなみ野の郷販売額	1.42億円	2億円
インショップ販売額	2,978万円	3,500万円
砺波・近隣市産を意識して購入する人の割合	71%	80%
学校給食における地場産農産物の使用率 (金額ベース)	21%	30%

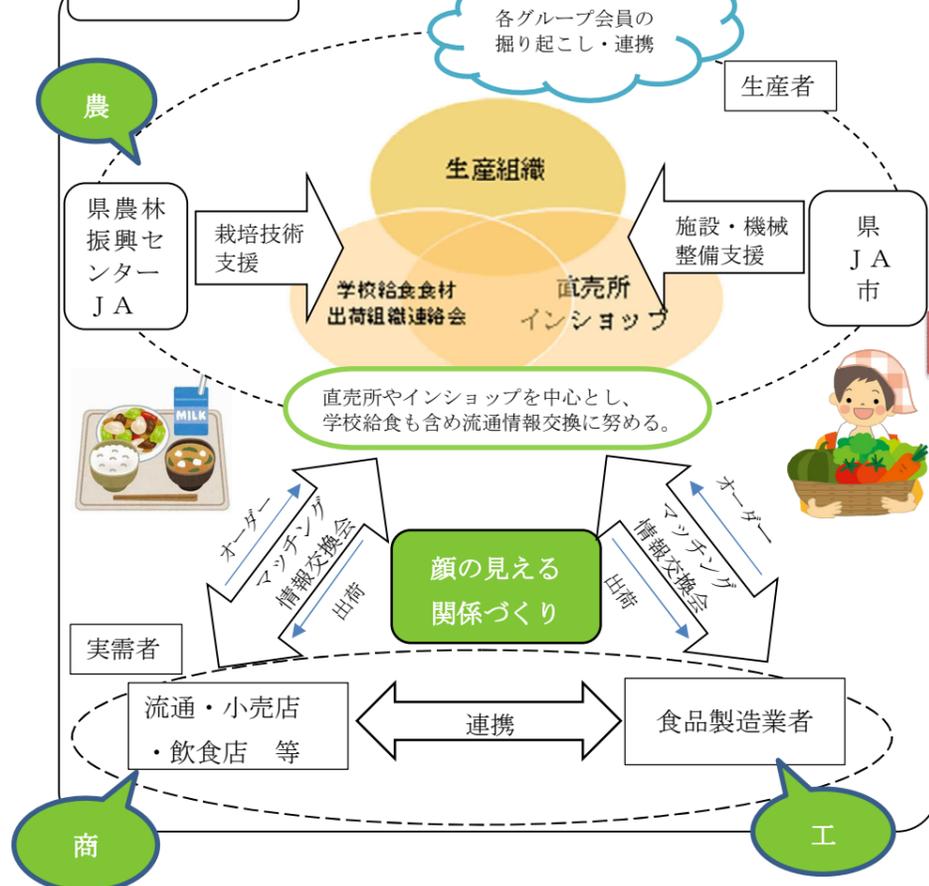
推進体制



砺波型の地産地消へ

～実需者と生産者が顔の見える関係を結びつけ、農作物の価値を共有し、積極的な地場産農作物の活用を図ることにより、地産の意欲と地消の創造を生み出す、砺波型の地産地消を目指す。～

目指す方向



生産量の拡大・継続的な取引

6次産業化・農商工連携

【生産者団体】
農業生産力増進のため、農業者所得の向上に向けた市場の開拓、販路の確保、新たな商品開発など、実需者と生産者をつなぐ組織として、実需者ニーズに対応した生産体制の構築を図ります。

【商工団体】
社会貢献活動（CSR）や地域密着型経済の展開、新たな事業シーズ発掘の観点から積極的な地産地消活動を徹底します。

地産地消推進会議

【市民（消費者）】
地域農業や食文化に対して幅広く関心を高め、生産者との交流活動や農業体験活動に積極的に参加するなど、地産地消推進活動に取り組みます。

【支援団体】
各関係機関と連携を図り、地産地消活動が広がっていくよう普及啓発や各種事業の活動支援等に取り組みます。

砺波市商工農林部農業振興課 〒939-1398 富山県砺波市栄町7番3号
TEL 0763-33-1111 FAX 0763-33-1129
E-mail noshin@city.tonami.lg.jp